

「住まいの文化」 その継承と未来

「木造建築の技と知恵」を現代に生かそう

東京の街は大きく変わろうとしています。2020年のオリンピックを前に、まだ使える建物をどんどん壊してしまう事態が進んでいます。住まいをめぐる各自治体が推進する「木造住宅密集地域の改善」が建て替えに拍車をかけています。一方で、古い建物に価値を見だし、内部の間取りやインテリアデザインを現代生活に合わせて改良した古民家再生が注目されています。今回の公開講座は、こうした情勢の下で、本校が教育実践の柱とする「木造建築の技と知恵」が果たすべき役割とは何か、日本独自の住まいの再評価と継承を呼びかける研究者の講演から考えていきます。

参加費
無料

開催日時

7月16日 日 午後1時～4時30分(予定)

会場

立教大学 池袋キャンパス8号館 8201教室

※会場整理の都合上、7月10日までに
参加登録をお願いいたします。

第1部 基調講演

今、日本の住まいに何が 起きているのか。

Lecturer



講師 内田 青蔵さん

神奈川大学 工学部建築学科教授、
専門：住宅建築史
2017年 日本建築学会賞受賞(論文)

内田青蔵さんは、明治以降の住宅建築史の専門家です。共著『受け継がれる住まい—住居の保存と再生法』(柏書房、2016年9月)では、一律的な「耐用年数」で建物の評価額をゼロにしてしまう考え方からの脱却を主張、住まいを受け継ぐ事例と方法を豊富に紹介しています。



第2部 パネル ディスカッション

現場の私たちは こう考える。

基調講演を受けて、住まいの設計・施工に日常的にかかわる建築カレッジの講師・指導員が、伝統的な住まいや生活を現代に継承する意義と難しさについて発言します。実際に住まいの維持・継承に取り組んだ居住者や内田青蔵さんにも意見を聞きながら、クロストークで進行します。木造建築の技と知恵の担い手の確保と育成の重要性についても語り合います。

「住まいの文化」 その継承と未来

7月16日(日) 12:30開場、午後1時開会～午後4時30分、
立教大学 池袋キャンパス8号館 8201教室

受講登録票を記入の上、FAXまたはメールでお申し込みください。

FAX:03-5950-1774 or info@doken-college.ac.jp

受講登録票

所属(会社名・学校名・組合支部名など)	お名前(フリガナ)
職種・学科など	参加人数
ご連絡先 TEL	メールアドレス @
東京建築カレッジ 公開講座への参加回数 ・初めて ・2回目 ・3回目 ・4回以上	内田青蔵先生に聞いてみたいこと
東京建築カレッジに期待すること、ご質問	

●立教大学 池袋キャンパス8号館への行き方



- JR・西武・東武池袋駅西口より大学正門まで徒歩約7分
 - 地下鉄東京メトロ丸ノ内線/有楽町線/副都心線 池袋駅西口より大学正門まで徒歩約7分
- ※大学正門に道案内を配置します。



左写真は「モリス館」とも呼ばれる立教のシンボル1号館。1919年の落成以来、現在も教室として使われています。東京都選定歴史的建造物。公開講座の会場はこの裏手の8号館教室です